

特集 学んで備える地域防災



▲やまのべ防災フェスの様子

【山辺町提供】

柱3 幅広い担い手の育成

地域での防災力を高めるためには、幅広い世代が防災活動に触れ、将来の地域防災の担い手として育つことが大切です。

防災の知識と技能を身につけるために、県や市町村が実施する研修会や、防災士養成研修講座などに参加してみましよう。

「地域における防災学習アクションガイド」はこちら▼



▲防災参観デーの様子
「寒河江市柴橋地区自主防災会連絡協議会」
（「しばはし防災ネットワーク」提供）



▲図上演習の様子
「尾花沢市自主防災リーダー研修会」
（尾花沢市提供）

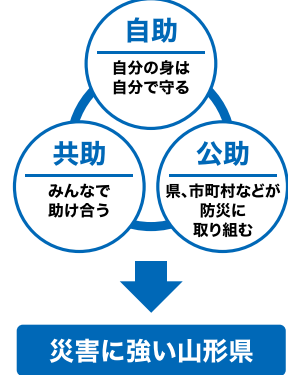
地域住民一人ひとりが、自らの命を守ることができ、互いに協力・連携し、自分たちの地域を守る力を身に付けることで、将来にわたって災害による被害を最小化できる地域社会の構築を目指します

地域で防災について「学び」、
備えていくために

頻発・激甚化する災害や人口減少などに対応し、地域の防災力を高めるためには、「一人ひとりの備え（自助）」と「地域の助け合い（共助）」が欠かせません。

そこで県では、県民や各関係者が防災学習の基本理念を共有し、防災学習を体系的に進める指針として、令和8年3月に「地域における防災学習アクションガイド」を策定しました。

アクションガイドには、防災学習の基本理念や3つの柱、目指すべき姿、各主体の役割や取り組みの方向性、県内市町村の参考事例などを掲載しています。



「ハザードマップ」は市町村のホームページや、国土交通省のハザードマップポータルサイトなどで確認できます。



災害への備えには、「県民防災チェックシート」をご活用ください。



「地域住民」の皆さんの取り組みをアクションガイドから紹介します。

柱1 災害の自分事化

自分の地域にどんな災害のリスクがあるのかを知り、主体的に防災学習に取り組むことが大切です。

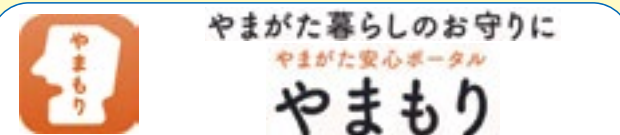
ハザードマップの確認、防災セミナーへの参加、家庭内の備え（例：備蓄、家具の転倒防止、避難経路や避難先の確認）など、日ごろから防災について学び、実際の備えにつなげていきましょう。

柱2 地域の防災活動の実効性向上

各家庭での備えに加えて、地域全体で防災力を高める必要があります。地域の一員として、防災訓練への参加や自主防災組織への参画など、地域の防災活動に積極的に参加しましょう。



家族で活用してほしい、役立つ防災アプリ



お住まいの自治体からの防災情報や、最寄りの避難所への案内に加え、災害が起きた際の安否確認や避難生活におけるニーズ調査など幅広い場面で活用いただけます。

※マイナンバーカードを「やまもり」で読み取り、事前の登録が必要です。

※住所が鶴岡市、南陽市、舟形町の方は、防災情報のリンク集のみご利用いただけます。



避難所ではアプリによる二次元コードの読み取りなどにより、迅速かつ適切な受付が可能。

ダウンロードはこちら

自治体からの防災情報を受け取ることができ、平時の防災対策や災害時の避難行動に役立てることができます。

アプリの詳細はこちら（特設サイト）



・現在地や調べたい場所の災害時のリスクを音声で確認可能！
・避難情報の音声読み上げ機能もあり、視覚障がいのある方だけでなく、小さな文字が見えにくい方にも安心してお使いいただけます。
・外国語（英語・中国語・韓国語・ベトナム語・ネパール語）にも対応しています！



平時において、最寄りの避難所の位置を振動と音声で確認し、避難ルートの事前学習に役立てることができます。

現在地や検索した地点において想定される浸水深や、土砂災害の危険度などを音声で紹介。

ダウンロードはこちら

アプリの詳細はこちら（県HP）